

## 社会福祉法人 薄光会 行動規範

私たちは、「社会福祉法人 薄光会 倫理綱領」ならびに服務規程に則り、つぎのことを自分自身の行動の規範とします。

### 「共生」のための価値意識を求めて

1. 私たちは、様々な困難をかかえる利用者一人ひとりも、私たち自身も、その他多くの人たちも、一人として排除しない「あたりまえ」の基本的価値を探し求めます。それが「共生」「共感」の根っこだと信じます。

### 「生活者」として接する

2. 私たちは、利用者を自分たちとまったく同等な一人の「生活者」として接します。

### 分けることができない一人の人間として

3. 私たちは、利用者を一人のトータルな人間と捉えます。決して自分たちの業務分担や役割や、専門分野ごとに区分けしてしまって、一部分しか見ないという誤りは犯しません。

### 固有の流儀、固有な理由を受け止めることから

4. 私たちは、利用者一人ひとりの行動や所作に固有の流儀や理由があることを理解し、あるいは理解しようと努め、受け止めることから関係づくりを始めます。

### 本人との直截な対話をこそ

5. 私たちは、言語、非言語を問わず、あらゆるコミュニケーション手段を駆使して、まず利用者本人と直截に対話をします。一般化された理屈を単純に当てはめて決めつけることはしません。

### 生きてきた歳月に向き合う

6. 私たちは、利用者一人ひとりが歩んできた固有の歴史に思いを馳せます。そのことが利用者の人生に深く関わっているのだという自覚を促し、尊厳を冒さない有力な方法だからです。それゆえ、生きてきた歳月の長さと同様に真摯に向き合います。

### 違う人生、違う経験、計り知れない意味を知る

7. 私たちは、自分自身の人生・生活経験の範囲で得た「知見」しか、持ち合わせていないことを理解します。今見えること、自分が判断したことがすべてだと思いたないようにします。私たち自身の知見では、計り知れない利用者の行動や所作の意味が隠されていることがあるからです。

### 「素敵」を見る

8. 私たちは、利用者を欠点から見てしまう自分自身を戒めます。利用者の素敵なところを見出す資質を養います。利用者への称賛を忘れません。

### それぞれの世界を広げる

9. 私たちは、様々な困難を軽減し、利用者一人ひとりの世界が可能な限り広がる「お手伝い」をすることが仕事の本分であることを理解します。私たち自身の思いや派生的な業務をその本分よりも優先することはしません。

### 裏付けある支援・介護を忘れない

10. 私たちは、利用者の家族や多くの人々に説明ができないような支援・介護をしません。十分な裏付けを持つ支援・介護が行えるように、不断の努力をします。

### 代弁者、翻訳者たれ

11. 私たちは、地域の人たちに対して、すぐれて利用者の代弁者になれるよう、利用者本人との関係性を深め、置かれている困難な状況を進んで理解し、利用者の「思い」の翻訳者であろうと努めます。

### 心は熱く、頭は冷静に

12. 私たちは、対人援助職のプロであることを自覚します。「心は熱く、頭は冷静に」を心がけます。感情丸出しの態度、行動はしません。

### 気づき・着想・振り返り

13. 私たちは、日々の業務、自分自身の支援・介護、気づき、着想を、常々振り返ります。日々の業務が「作業」となり、なんとなくこなしている状況には陥らないよう自分を戒めます。

### 「こうすればもっと良くなる」が活力の源

14. 私たちは、自分自身にとって慣れ親しんだ業務のパターンに安住しません。利用者のそれぞれの世界についての気づき、課題に対する認識、利用者との信頼関係の深まり、改善への着想こそが、この仕事の醍醐味であり、自分自身への活力の源であることを忘れません。

### 職場風土づくりは力量のたね

15. 私たちは、一人では良い仕事ができないことを肝に銘じます。相談し合い、支え合い、協力してチームとしての力量を高め、自分自身の力量も高めていける職場風土づくりに最大限努めます。



2013.9.18. 作成完了

2013.9.28. 第224理事会、第55評議員会における承認・同意を経て発効